

section 3 震災体験座談会
災害を通じて
思うこと

鳥取県西部地震において日野病院では診療不可能という甚大な被害を被りました。それにもかかわらず病院側の早急の対応で入院患者の転院、仮診療所での被災者・通院者などの診療を再開し、治療にあたっていました。その時のスタッフの賢明な様子と災害時の対応やこれからの医療に何が必要かを、当時の入院患者4名を中心に病院側スタッフと語り合っていました。



災害を通じて思うこと

病院のカベがはがれて 看板が落ちていくのが見えたんです…

院長 今日はお忙しいなかお集まり頂きましてありがとうございます。早速ですが昨年の鳥取県西部地震で当時の旧病院が使えなくなるという被害を受けました。幸い新病院を建設しておりましたので、予定を2ヶ月早めて開院することとなりました。喉元過ぎれば熱さ忘れると言いますが、またいつこういう事が起きるか分からないものです。後々へ残しておくためにも震災記録集を作ろうということで、このような機会を設けさせていただきました。皆さんの貴重なお話をもとに構成し、今後役立たせていく所存でございます。どうぞよろしく申し上げます。

頭本 では震災当時のご様子をお聞かせ頂きたいのですが。

中尾 私は震災1週間前くらいから3階に入院しておりました。ちょうどお昼の回診の時でしたか。

影山 そうです。中尾さんの入院しておられた4人部屋で回診していた時に地震があったんです。小椋さんは地震当日に入院されたんですね。



小椋 はい、ちょうどその日でした。10時半頃に3階に上がりまして1本点滴してもらいましたらお昼になりました。食事がすんでからもう一度点滴しようねと看護婦さんが言われましたので待っていたんです。私の隣の人まで回診の先生が来ておら

れて、今度は私のところだろうなと思ってました。窓の外を見ると、先生が1人屋上でランニングしておられたんです。しばらくその先生をみてましたら地震が起きました。私はすぐカーテンにつかまり、揺れがおさまるのを待っていました。ちょうど1時頃に、看護婦さんが来ておられたら点滴の最中だったかも知れないです。

中尾 地震が起きたときは本当にびっくりしました。ぼーんと跳ね返されるようなうねりがきて揺れ出しました。あ、近いところが震源地だなと部屋の人たちと話をしていました。地震は体験しておりましたので、これは震度5くらいかなと思っていたんです。

影山 ちょうどその部屋はみなさん落ち着いた方々で、精神的な動揺はあまりされてなかったです。地震が来るから危ない、動いてはいけないということとその部屋の方々はよくご存知だったんですね。

中尾 すぐ机の下に潜りました。

影山 こちらのほうが教えられる事が多かったと思います。それからみるみるうちに向こうの棟のカベがはがれて看板が倒れるのが見えました。

小椋 お茶や御飯を置く一番足下にあるテーブルがぱあっとこっちに飛んできたりもしました。あまりしゃべれないようなおばあちゃんと4人部屋に2人しかいませんでしたから、「おばあちゃん、地震だよ危ないよ」って声をかけたんですが返事してくれない。しばらくすると男の職員さんが来てくれて、「ここはロッカーが近いから倒れたら危ないよ、あっちの窓の方に逃げて」と言われました。でも歩けないんです。だからベッドに掴まりながら歩いて行ったんです。すると、今度は違う人が「おばあちゃん、そこは窓が割れると危ないから奥の方へ行って」と言われるので、またベッドに掴まりながら歩いて行きました。ちょうど来たときにロッカーの上にあった段ボールが肩へ落ちてきて…。あと思ったんですがよろめいてしまって、足下も不安定でしたので、転んでしまいました。腰を打ってしばらく動けなかったんです。ベッドの下にもなかなか入れませんでした。そしたら今度はロープを持ってこられた男の人に外へ出なさいと言われました。男の人が前と後ろとで囲んで、歩ける人はロープに掴まって歩きなさいと言われ3階から1階までおりました。



影山 階段を下りられたんですか？

松原 エレベーターはストップしてましたから、階段しかなかったです。電気も切れて薄暗かったんですけど1階に降りるまでは一生懸命でしたね。本当はすぐだったと思いますが、どれくらい時間がかかったかと思うくらい長い時間でした。外へでたら駐車場で、待合室のベッドを看護婦さん達が並べていてくれて、ここに座りなさいと言ってくださいました。やっとの思いで腰を下ろすと、ああ家は怎么样了らうかと初めて思いました。

中尾 皆さん無事に降りて来られたんですね。

小椋 はい、男の人たちによく先導してもらい、誰1人転ぶ者もなく無事に降りて来られました。それと看護婦さん達も、気をつけて下さいよ、用心して下さいよと声をかけて下さったので、落ち着いて居りました。看護婦さん達の励ましに涙がでましたね。

「ちゃんと避難されましたよ」

この電話で安心できました

川上 松原さんはどうでしたか？

松原(夫) 8月21日から入院してまして、大腿骨の当たりが立ってられないほど痛むんです。MRIなどで検査してもらって結局9月に手術してもらいました。だんだん良くなってきて、そろそろ外泊許可が出せそうかなあと、先生が言って下さった頃だと思うんです、地震がありました。私達は二人暮らしなので家内がだいたい泊まって看病してくれていたんですが、調子が良かったもので当日は帰ってました。あの1階の部屋で私は独

りぼっちでした。家内は家で独りぼっちでした。地震が来たときには頭に物が落ちてはいけないと思い、カベ沿いに立っていました。外へ飛び出たいと思いましたがじっと辛抱していました。そうしたら看護婦さんたちが「早く外へ待避して下さい」と飛んで来られて一緒に外へ連れて出てくれたんです。私が出た頃にはみんなはもう外に待避していましたね。

川上 松原さんは歩けましたか？

松原 (夫) ええ、自分で歩けました。外に出てから家の事が心配になり電話をかけたかったんですが、皆さん忙しいですし、電話をかしてくれと言うに言えなくて…。すると家内の方から病院に電話したそうでした。



院長 病院の方にすぐつながりましたか？

松原 (妻) いえ、最初はつながらなかったのではしばらく待ってからもう一度かけてみました。うちの電話はダメだったので近所の子の電話を借りて。そうしたら女の子が出てこられました。「実は松原という者ですが主人が入院しております…」と話したら、その方が「患者さんは全員無事に避難されましたから安心して下さい」と言ってくださいました。「私事ですが主人が心配しているといけいので、家はまあこわれたけど私は大丈夫だからともし出来たら伝言して下さい」と言ったんです。

松原 大丈夫だからと家内が電話してくれたのを看護婦さんがちゃんと伝えてくれましてね。ずっと心配してたんですが、やっと一安心できました。

松原 (妻) 家に帰ってから2人で話しました。誰が伝えてくれたんだろうって。それからその日の6時頃だったと思いますが、病院の方から電話を頂きまして「おばあちゃん、おじいちゃん

ちゃんと避難されて、今体育館の方におられますよ、安心して下さいね」って言って下さったんです。まあなんと有難かったですね。その時は分からなかったけど後で分かったんです、整形の看護婦さんだなんて。余震も続いているし、不安でしたがおかげでやっと安心できました。

岡野 しばらくは病院の玄関前に待避していたんですよ。体育館に避難されたのは何時ごろだったでしょう？

小椋 だいたい3時くらいには避難していたんじゃないでしょうか。

頭本 地震がきてから病院の玄関前に避難して、そこにいたのが2時間くらいだったと思います。それから、電気がつかない、不安がある、ということで町民体育館を使わせてもらえるようにと交渉しました。早く岡野先生にも決断していただかないといけいし、とにかく急いでましたね。なんとかお願いをして許可を頂きました。

川上 中尾さんは病室からどうやって外へ出られましたか？

中尾 看護婦さんの対応が良くて助かりました。ロープがあったのでそれを掴んで階段を降りました。先に走るじゃなく、大丈夫？と声をかけてくれながら一緒に降りてくれました。本当にありがとうございました。

みんなの協力で早く避難できました



川上 では今度は看護婦さん側の話を聞いてみたいと思います。

佐々木 私はその日夜勤だったので家で地震に合いました。すぐに家を出たんですがなかなか病院まで

これなかったんです。着いたのは3時くらいでした。その頃にはもうほとんど全員が体育館に避難していました。

川上 病院の電気がつかなかったので、車で発電機を取りにすぐ近くまで行かせたんですがなかなか帰って来なかった。それぐらい車では動けなかったんですね。

影山 3階病棟の方ではまず安全確認、患者確認を行いました。全員を駐車場に避難させるよう課長より命令があってすぐ取りかかりました。電気もエレベーターも止まってしまったので階段から避難しました。詰め所の一番奥にある棚からロープを持ってきたんですが、倒れる物は全て倒れてしまっていて足の踏み場もないくらいでした。ロープを使ってまず歩ける人から順番に避難誘導していき、次に車椅子の方。力のある男性が2人がかり位で階段を車椅子ごと持ち上げて降りて行ったりおんぶして降りていったり。それから当時一番多かったんですが寝たきりの方。この方たちは布団ごと、みんなが持ち上げて運び出してくれました。最後は酸素ボンベ使用の方。全部で20分くらいじゃなかったでしょうか。全ての患者さんを避難させるのに、すごく早かったんです。地震があってすぐ下階からいろんな部署の方たちが上がってきてくれて、力を貸してくれたので助かりました。医局の人、食事係の人、事務員さんみんなが来てくれて、「何をしたらいい、指示してくれ」と次々言って下さって力をかしてくれたお陰で患者さんたち怪我もかすり傷一つなくみんな無事に避難できました。駐車場に避難してからも「何かするこ

とは」と駆け寄ってきてくれたので「患者さんが横になれるように布団を持って来て下さい」とお願いすると「よし分かった!」と、余震の続く中、また病院の中に布団を取りに行ってくれたんです。すごい力でした。そして私達も再度残って居る人がいないかどうか、2度も3度も確認をして回りました。

川上 中尾婦長さんのところではどうでしたか？

中尾 私達はちょうど午後の仕事がそろそろ始まるころで、患者さん達がリハビリに来られたりしてました。地震が来たときには廊下に出ていて、それこそ物がどんどん落ちてきましたから、詰め所に入って、足ががくがくふるえてちゃんと立てないような状況だったので、揺れが治まらないと出てもだめだから治まるまで机の下にいなさいと看護婦たちに言いました。誰かが「患者さんは!？」と叫びましたが「余震があるから出ちゃダメ」とまた言ったんです。そして大きな余震が治まってすぐ、「患者さんのところに行って!」とスタッフに行かせました。私も飛び出たんですが、廊下に出たら防火シャッターも閉まり回りが薄暗かったんです。事務から人が上がってきて、「患者さんを避難させてくれ」と言われたのですぐに近くにあった車椅子を持って病室に走りました。御夫婦でおられた部屋に飛び込んで、「早く乗って!」って叫んだら、普段は動けないおじいちゃんだったんですが、その時だけはさっと車椅子に飛び乗ってくれました。おばあちゃんも一緒に避難しました。それからまた戻って全部の病室やトイレなどの扉を開けて点呼して回りましたね。それから2階の



主任がその日不在でしたので2階に上がりました。1人症状の気になる患者さんがおられたのでちゃんと確認がとれるまで必死でした。

川上 点呼はどうやってされました？

中尾 今思えば私もちょっと動揺していたんだと思いますが、どうやって点呼しようかと考えました。そして思いついたのが、患者さんの名前の書いてあるボードのことだったんです。1階の詰め所に戻って、あわててボードをはずして、点呼に使いました。それから医局長さんか次長さんに報告したと思います。

院長 実際避難出来た時間はどれくらいだったと思いますか？

中尾 そうですね、かなり早かったと思います。それこそ皆さんが来てくれて協力してくれて、さっと避難出来ましたから。誘導の指示もスムーズに出来て良かったと思いますよ。

院長不在、総婦長不在の中で…

院長 岡野先生はその時どちらにおられましたか？

岡野 私は昼食後に病院に帰って来たところで、患者が外に出始めていたころでしたね。次々患者が飛び出して来るんで、そのまま外にいました。

川上 そうでしたね、当日は院長が不在でしたので、岡野先生に指揮を取ってもらおうということになったんです。

岡野 そう、そこに机と椅子をおいて災害対策本部長になってくれと言われました。看護婦さんも総婦長さんも、その時だれも回りにいなかったんですよ。



院長 私が出張して病院にいませんでしたからね。岡山からやくもで帰って来る途中で地震に一報を聞いたんですが、すぐに電話が通じなかった。ずーっと電話かけていたんですけどね。やっと連絡がついたのが夜の7時半くらいでした。それから電車もずっと止まってしまっていたし、病院についたのが夜中の1時半でしたよ。

川上 総婦長も不在でしたね。看護婦さんたちのほうでは、誰が指揮をとったんですか？



影山 はい。外で待機していた時に「影山」とよばれて「今日は総婦長がいない、お前が指揮をとれ」と言われ、まず全員を点呼しなきゃいけないと思いました。それからそれぞれの部署の責任者を集めて点呼の報告を受けて、患者さんの処置に当たりました。まずは注射器と吸引チューブを持って、点滴の必要な患者さんに点滴をして、それから窒息しないように横に向いてもらいました。

院長 病院では電気が使えませんでしたけど、吸引の患者さんの処置はどこでしましたか？

岡野 吸引が必要な患者がいるという報告を受けたので、非常灯のついていた保育園の園長先生に使用許可をもらいに動きました。それから町民体育館の確保にも。重症患者については日南病院に交渉しました。しかし日南病院までの道が通行できなかった。しょうがないので下を通って行こうかと思っていたら一時的に解除されたんです、偶然に。片側に石が落ちていたんですが、片側通行で通ることができたため、無事搬送できました。

院長 全員の避難完了はだいたい何時くらいでした

か？

影山 そうですね、4時くらいには社会体育館に避難できていたと思いますね。

何よりも水の確保

川上 不便なことだらけだったと思いますが、なにが一番大変でしたか？

影山 水ですね。飲料水は必ず確保しなければいけませんでした。みんなが不安も動揺もあるせいであせて避難したので喉が乾いているだろうと思い、とにかくジュースでもなんでもいいからと近くにいた看護婦に言って買ってきてもらいました。ペットボトルに水をいれてみんなに一口ずつでも飲んでもらおうと配って歩きました。

小椋 私頂きました。

影山 飲まれましたか？良かった。

小椋 涙がでました、本当に、あの一杯が忘れられません。

影山 何よりも水が一番大事だと実感しました。それからトイレの水の確保。トイレの水はみんなが協力してくれて、川からバケツリレーで汲んで。私それを見て感激しました。備蓄もありませんでしたし。

院長 川は近くにあるから、助かりましたね。

影山 食物は給食の方々が何とかありますと言ってくれましたし、事務局や医局の方々が「次何がいる？何をやる？」と声をかけて助けてくださったんで、特に困ったなと思うことはありませんでしたね。

佐々木 その日の8時くらいには自衛隊の救援物資とかが届けられました。

影山 そうですね、給水車もきましたし、毛布とかも頂きました。寒かったんです、夜は。



小椋 ええ、寒かったですね。毛布もちゃんと掛けていただいて。本当にありがたかったですね。もう何も持たずに避難していましたが、私は血圧が高いもんですから顔色が悪かったみたいで、看護婦さんが次々に「おばあちゃん大丈夫？寒いのか？」って心配して声をかけてくれました。「頭が痛いんです」と言うと「薬を持って来てあげるから」と言われるので、「いや、やめて下さい、危ないから」と断るんですが、病院に戻って頭痛薬と水を持ってきてくれたんです。今度は「おばあちゃん、貴重品持って出なかった？」と聞かれたので「何も持って出なかったんです、少ししか入ってませんからいいです」というとまた「取ってくるから」といわれて、危ないのに病室まで行って下さったんです。そしたら貴重品だけじゃなくて、私の血圧の薬まで探して持って出てきてくれて。私もどこに置いていたのか分からなかったんですけど、家族でもそこまで気づいてくれないだろうにと思うと、涙がでました。看護婦さんにすがりついて泣きました。一生忘れません。それから次の日には影山婦長さんが家に電話をかけてくられて、息子が向かえに来てくれました。そしたらまた看護婦さんが病室の方に荷物を取りに行ってくださいました。70年生きてますが、本当にこんなに有難いと思ったことはありません。



院長 余震もずっと続いてたんですね？

小椋 ありました。それでも取りに入ってくれると言うので。

院長 搬送の病院振り分けはどうですか？

岡野 米子の国立病院と博愛病院と日南病院ですね。

院長 電車の中でなかなか携帯電話が繋がらなかったんで、状況がなかなかつかめなかったです、私は。後からの報告で、他病院が積極的に受け

入れてくれたと聞きまして、本当に感謝しています。結局振り分けは次の日様子を見て決めようということになりました。翌日は、みなさんはどうされたんですか？

中尾 家に帰りました。

小椋 私も家に帰りました。

松原 何も持たずに体育館に避難したもんですから、看護婦さんが荷物を持ってきてくれまして、なんとか帰れました。

道路が寸断されて車が全く動かなくて…

院長 金田さん、当日の様子とか町の体制とかはどうですか？

金田 私も役場で地震にあいまして、その時職員はほとんどいなかったんですがみんな駐車場に避難しました。全職員の3分の1位しかいませんでしたがとにかく手分けして被害調査に回ろうということで、私は1日中根雨町を回りました。さっきも話がありましたように、橋と橋では段差が出来てしまっていて、通れなかったんです。もう土木事務所がでて交通整備にあたっていました。道のほうは大きな石が落ちていたくらいで、あまり目立った被害はありませんでした。工事現場で生き埋めになっていた人については消防がでて救助にあっていると報告を受けていましたので、そこの現場には行きませんでした。



院長 避難所の設置はされたんですか？

金田 それは残った職員が数人いたので指示をだして、私が帰った時には設置が出来ていました。救護

給与派というところに私は所属していましたので、そこで救援物資を配る手配だとかをしていました。

院長 生田さんは当日はどこにおられましたか？

生田 私は当日は米子にいました。介護保険の全国シンポジウムがピクニックであったんです。米子も結構揺れたんですけど、全く人ごとだと思ってました。でもテレビで報道を見て心配だし帰ろうかという話になったんですが、迎えのバスが来れなかったんです。他のバスも動かない、電車も止まってしまっていたのでバスで帰るしかなかったんですが、朝いったん私達を米子まで乗せてきてくれて、また江府町まで帰っていたんですね。急いで向かえに来てもらうようにしたんですが、動けなかったんだそうです。

院長 何時頃帰ってこられました？

生田 1時半すぎからずっとバスを待っていてやっと来てくれたのが4時頃、こちらに着いたのは5時ぐらいだったと思います。あまり正しくは覚えていませんが…。それから自分の地区に帰り民生委員さんに、独居の方と身体障害者方の安否の確認をして下さいと言いました。それから情報収集です。役場の電話1本に被害状況の報告も安否の確認の電話も集中してしまって、パンク状態でした。どこそこのだれそれさんは無事ですか？というような問い合わせが殺到しましたね。

院長 2日目の病院はずべて空になりました。全員無事避難もすんでほっとしたのも束の間でした。避難所が何ヶ所もあるということなので、7日の夜全てを保健婦さんと一緒に回りました。各避難所からの情報収集もままならない中、とにかく重症患者から先に回らなければいけないということで、必死でした。

院内の患者は全員無事避難。

おかげで避難所回りに集中できました

影山 看護婦も7日8日は全員出勤で、社会体育館の片づけをしたりしました。

院長 それから9日には災害対策委員会を立ち上げて、保健婦さんをお願いして来てもらって段取りを手伝ってもらいましたね。

生田 はい。各避難場所に2名ずつということで。
松原 私達が家に帰った後も、看護婦さんたちが家に来て様子を見ていってくれました。ありがとうございました。
院長 患者さんの退院後もそれを行ったんですね。
影山 はい。自分の住んでるところに近くに患者さんがいたら様子を見るように言って、看護婦の居ない地区の患者さんには民生委員さんなどをお願いして。とにかくまわりにお年寄りとか独居の方などおられたら、声をかけてと言いました。
院長 日頃からみんなの防災意識があるのと、7月に火災訓練をしたばかりなので、比較的すべてにおいて段取りよく行えたんじゃないでしょうか。
川上 ついこの間芸予地震があったばかりでしたが、その時は皆さんどうでしたか？
松原 この震災のせいで、車がそばを通過して振動しただけでもびくびくすることもありました。芸予地震の時はここは震度3くらいでしたが、地震に過敏になってきていますね。

災害時に必要な物とは

川上 震災後の仮設診療所の様子はどうですか？
中尾 仮診療所に薬をもらいに行きました。
院長 毎日だいたい180人くらい来られましたよ。
小椋 私は1日おきに点滴をしてもらいにいきました。10月の終わり頃まででしたか。ただ不便と思ったのが、仮設トイレの段が高くてあがれなかったんです。
川上 あれはすぐにブロックを置きました。
小椋 あと、点滴をしてもらうのにもベッドが満員でなかなかあかなかった。
院長 点滴は時間がかかりますからね。
松原 私は家で腰痛体操をやっていました。診察にきたのは新病院になってからです。
小椋 看護婦さんが家に電話かけてくれました。「様子はどう？」と何度も何度も。ありがとうございました。
影山 電話は、NTTさんから携帯電話の設置をいただいたんですけど、時期的にもう少し早ければ…と思いました。震災後すぐにでも連絡が取れるような体制が必要だと思います。

影山 ポータブルの吸引機とか持ち運びの酸素ボンベがかなりあったので助かりました。それから旧病院は中央配管ではなかったということが凄く良かったです。中央配管は災害時には使用できませんので。
中尾 やっぱり災害時には持ち運びのできるものが必要になります。あと食料などの保存食の備蓄も必要だと実感しました。
佐々木 持ち運びのできるような機械などは全部こちらに持ってきてあります。
岡野 しかしこれだけ大きな地震でも被害がこれだけですんだというのはラッキーでしたね。病院の中でも特に重症患者は少なかったですし、時間帯も昼間で比較的すぐ動けたから。これがもし夜だったら…と思うと、不安ですね。この先起こらないとも限らない。だから避難訓練などももっと必要になってくる訳です。
院長 そうですね。それと、スタッフと連絡を密にしないと動けない。避難所の様子の把握にも勤めなければならない。また、行政に訪ねてもすぐに返事をくれないからこちらから出向いていかなければ情報ももらえなかった。比較的私は役場とかに行けたので助かりましたけど。
金田 行政側としてもこれだけ大きな地震を体験している者もほとんどいなくて、どう対処していったらいいのかわからない事の方が多かったように思います。今後住民を含めた対策としてそういう仕組みをつくることを課題として考えていかなければいけないと思います。
院長 病院側としても、今後こういった震災が起きた時の対処方法として色々見直しをしていかなければならない。今日の皆さんの貴重な意見を基に早急に行っていきたいと思います。本日はお忙しい中、本当に有難うございました。



● ● ● 座談会出席者 ● ● ●



患者付添
松原貞子さん
(日野町津地)



患者
松原敏明さん
(日野町津地)



患者
小椋禎子さん
(江府町下蚊屋)



患者
中尾博憲さん
(江府町俣野)



日野町保健婦
生田季子さん



日野町在宅介護支援センター長
金田雅夫さん



2階看護婦長
中尾恵美子



3階看護婦長
影山光恵



外来看護婦長
佐々木節子



日野病院
堀江 裕院長



日野病院
岡野一廣副院長



日野病院事務局長
川上和彦



日野病院総務課
頭本保人

*section***4** 鳥取県西部地震
新聞報道集

これらは震災後特に印象に残った記事や、院長をはじめ病院関係の記事、あるいは新病院開院に伴う記事などをピックアップしたものです。避難所生活の様子や地震の恐ろしさ、悲惨さなどをこの手記以外の視点から見たもので、また改めて大きな被害だったことを思い知らされます。

なお、ご協力頂きました各新聞社の方々には厚く御礼申し上げます。

ご協力新聞社（順不同）

新日本海新聞社・山陰中央新報社・毎日新聞社・読売新聞社・朝日新聞社・産経新聞社

山陰 中央新報 2000年（平成12年）10月8日（日曜日） 第21125号（日刊）

被害拡大 重軽傷97人

鳥取県西部地震、余震365回



山陰両県 家屋損壊 3900棟超す

震度5強を記録した鳥取県西部大震災から二つた七日も、県西部を中心に震災の余震が相次ぎ、被害は相次ぎに広がって来た。山陰両県、被害は十七人に達した。救助の復旧作業も、インフラや交通網などは持ち直し始めたが、が元の正常を取り戻すには、未だ時間がかかると見込まれている。鳥取県は七日までに災害救助法が適用された。余震はさらに勢いが増しており、鳥取県災害対策本部（本部長・片山啓事）は、引き続き警戒を呼び掛けている。

米子など4市町 災害救助法適用

鳥取地方気象台は七日、全県域は地震や鳥取県西部の地震を記録した。有感地震は午後八時現在で自五十一回、六日からの合計は三三六回以上だった。震度以上の余震が発生する確率は、依然として西の海側だといふ。重軽傷者は総計五中心に八十九人に増加。建物被害は合計約二千棟で、うち日野病院は医療設備が機能しなくなり、入院患者全員が近くの体育館に避難。ベッドや医療器具を持ち込まれた体育館は、さながら野戦病院と化した。鳥取朝日野野野町社会体育館



必死の避難



避難所となる倉庫内に避難する。地震に強い鳥取県佐治町の避難所。避難所は4時15分、避難所開設後10分



避難生活の不安、疲労の色濃く、深い傷跡懸念の復旧... 鳥取県西部地震の被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

続く余震 不安の住民



鳥取県西部地震 避難生活眠れぬ夜

鳥取県西部地震発生から1週間、被災地では余震が続き、住民の不安が募っている。避難生活を送る住民は、毎晩寝られないという声が多く聞かれる。また、被災した家屋の倒壊や火災の発生も懸念されている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

疲労の色濃く、深い傷跡懸念の復旧... 被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

鳥取県西部地震発生から1週間、被災地では余震が続き、住民の不安が募っている。避難生活を送る住民は、毎晩寝られないという声が多く聞かれる。また、被災した家屋の倒壊や火災の発生も懸念されている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

余震・地響き 募る不安



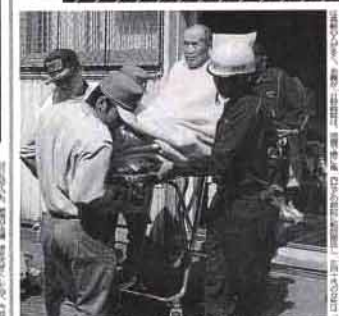
鳥取県西部地震 「怖くて帰宅できぬ」

鳥取県西部地震発生から1週間、被災地では余震が続き、住民の不安が募っている。避難生活を送る住民は、毎晩寝られないという声が多く聞かれる。また、被災した家屋の倒壊や火災の発生も懸念されている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

怖くて帰宅できぬ... 避難所 高齢者疲労濃く... 被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

連休なのに... キャンセル続々... 米子... 西伯町... 給水も茶色に濁る... 被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

日野西伯 病院機能マヒ患者避難



鳥取県西部地震

鳥取県西部地震発生から1週間、被災地では余震が続き、住民の不安が募っている。避難生活を送る住民は、毎晩寝られないという声が多く聞かれる。また、被災した家屋の倒壊や火災の発生も懸念されている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

家族気遣い不安な一夜... 自力で動けず「怖かった」... 被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。

溝口町役場は「危険」... 震度4 3回... 左に1.4メートル横ずれ... 被災地では、避難生活を送る住民の不安が募り、疲労の色が濃くなっている。また、地震による建物被害は深刻で、復旧作業も遅れている。被災者からは、早く自宅に戻りたいという切実な願いが聞かれる。



まるで野戦病院、

避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。

避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。

日野病院

旧看護婦寮で外来再開

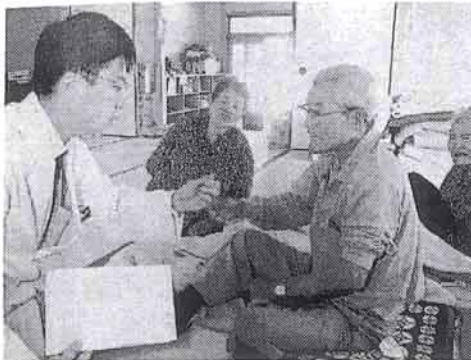
被災者が次々に訪れる



日野病院では旧看護婦寮を診療室に充てて外来診療がスタートした。左から旧看護婦寮の一角

避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。避難所を仮病室として、入院患者は約100人。

通院できぬ お年寄りに 医師、看護婦ら避難所巡回



避難所の老人たちを往診し、症状を聞く日野病院の医師（左）と日野町下樓で、佐藤賢二郎写真

日野病院 県西部地震で大変な被害を受けた日野町では、県内避難所で最も多い約150人が、町内7カ所の避難所で12日の朝を迎えた。ほとんどが、倒れ

た。日野病院組合日野病院の医師や看護婦らは、避難所の巡回をし、診察だけでなく、優しい言葉をかけ、励ましていく。同町は震度6強の揺れに見舞われ、外来棟は倒壊の危険が出て閉鎖された。病院の患者は85歳以上のお年寄りが8割を占める。10日から仮設診療所を倉庫に設けたが、顔を見せなくなった患者もいたため、堀江裕院長が「非常時こそいつも通りの医療水準を維持したい」と巡回を提案した。10日から看護婦1、2人が毎日、各避難所に張りつき、診察を求めている住民がいるかどうかや健康状況などを聞いて医師に報告。医師が交代で、看護婦1人と避難所を巡回し、栄養剤の点滴など

高齢者の健康 陶山医師（西伯院）に聞く



水分を取り入浴も効果

「高齢者は水補給を心がけてほしい」とアドバイスする山形市医師・陶山由起子氏。陶山由起子氏「高齢者は水補給を心がけてほしい」とアドバイスする山形市医師・陶山由起子氏。陶山由起子氏「高齢者は水補給を心がけてほしい」とアドバイスする山形市医師・陶山由起子氏。

「非常時こそいい医療を」

news 山陰中央新報

鳥取県西部地震から半月
記者が見た被災地

若者の手助けに感動
冬が越せそうにない
増殖した岸壁のため息
高齢者中心に体調不良
縦割り運営の支援窓口
農業再開を目指し奔走

物見遊山に映る惨状
数字で表せぬ住宅被害

鳥取県西部地震から半月、記者が見た被災地。被災地の現状を伝える。被災者の声も届ける。被災地の現状を伝える。被災者の声も届ける。

激震 その時

【鳥取県西部地震】

<7>

西白病院（西白町）の第二病棟三階病室の突然、部屋が動く。食器が倒れた。昼休憩中。看護婦の山形和枝さん（54）と四人あわわて廊下へ。天井から滝のように水。給水機が崩れた。流れ落ちてくる。廊下へ。廊下が水浸し。「大丈夫ですかー」。寝たままの患者を見る。棚から落ちた荷物。下に電気が。廊下を走る。「患者さんを出さない。階段を下りる。上の階の廊下。水にぬれた。余震。感じる余震はなかった。

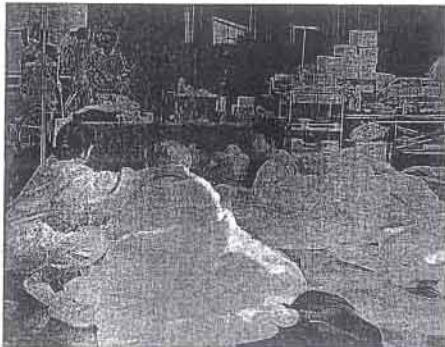
入院患者、緊迫の避難

看護婦の声。電気がいる。がビストン搬送。午後六時。重症患者は少ない。看護婦 幸。二十四人全計を受け

入院患者、緊迫の避難

後二時十五分。全員が駐車場で避難。地震が十分後。災害対策本部が警報。日野病院で患者避難。地震発生。停電。「患者を出せ。どろり。入浴者七十五人。二十分後。全員避難。医師。看護婦の増員要請。

一層。だが。「吸た。午後三時。西白病院が患者の吸引ができません。者の転院要請。救急車五台



近くの町社会体育館で一時避難生活を送った日野病院の入院患者。鳥取県日野町。町社会体育館。町社会体育館。町社会体育館。

夕方四時。「重症患者八人受け入れを」。搬送時間は通常二十分。国道、県道が損壊している。午後八時。搬送終了。

同じころ、西白病院。患者が避難続行か。藤原長一受け入れを。搬送時間は通常二十分。国道、県道はいつまでも使えない。搬送が損壊している。午後八時。搬送終了。

だが「病院は安全だ」。患者には疲労の色。「動行できない」。午後二時。「病院はもう、戻れない」。深夜。避難場の日野町社会体育館。町社会体育館。町社会体育館。

西白病院の転院患者。十六日。米子市内での病院から全員避難。日野病院に立ち入り禁止の承認。新病院に移転。日野病院に立ち入り禁止の承認。新病院に移転。日野病院に立ち入り禁止の承認。新病院に移転。

日野町の被災。日南町生。で患者避難。ニーズがなかった。町になった。一者に電話。午後二時。日野町。町社会体育館。町社会体育館。町社会体育館。

東西部地震 堀江裕・日野病院長に聞く



被災者の話聞くのもケア

「患者さん、お開りなさい」。鳥取県西部地震で日野病院が被害を受け、一日に新規入院が...

食生活、リズム大切に

「精神科のケアが一番重要だ」と、鳥取県西部地震で被災した日野病院の堀江裕院長は、被災者のケアについて話した。

新装の日野病院 転院先から患者戻る



日野病院に転院していた患者を迎え入れる日野病院の看護婦ら

この日は、一般患者三人、介護者三人、十日廿六日から南町の、個室敷を十室から一室まで減らして...

新入院含め9人 20日から手術も開始

「患者さん、お開りなさい」。鳥取県西部地震で日野病院が被害を受け、一日に新規入院が...

2001年(平成13年)1月15日 月曜日

潮流

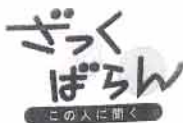


堀江 裕

地域病院のめざす 坂の上の雲

鳥取県西部地震が発生して5カ月が経過した。最も被災が大きかった日野郡内の住民には、機能的な夜間や精神的なケアが必要...

被災地抱える 日野病院院長 堀江 裕さん



この人に聞く



気分転換の大切さ知って

「ビタミンの点滴を受けるのも良い」。今後、住民のケアについて、被災地域の病院としてどのようなことを考えているのか...

してあつて、米子市内などの病院に転院している約二十人の入院患者も十五日までにすべて受け入れ、二十日から手術再開も開始する。